

第345号  
平成28年

5月10日

# すまいるたん



発行元  
東京新聞  
南千住専売店  
TEL3803-1781  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL090-2657-0300

## 今、できることは 熊本地震支援



「自分の代わりに活動をしてもらうために」

平成28年4月14日に発生した熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震以降、熊本県、大分県を中心に地震が相次ぎ発生し、住宅倒壊も多く今も多くの方が避難生活をされています。



自分も何かできることをしたいとの思いから、寄付をされた方、検討している方は多いと思います。そこで気になるのが、寄付したお金がどのように使われるのかです。

災害支援の寄付・募金には「義援金」と「支援金」があります。それぞれ、お金の使い方が違います。

義援金は支援団体が行う緊急支援、復興支援には使われません。義援金は被災者個人々に配分される仕組みになっています。それぞれの被災者の状況を検証してから配分されるので時間がかかります。「東日本大震災義援金」は被害調査の時間を要し、さらに、行政自体も被災してしまっ

たために配分の遅れが目立ちました。被災者が一番困っている時に義援金は支払われなかったという話もありました。

支援金は、被災地で様々な支援活動を行っているNPOやボランティアグループなどの機関や活動資金提供に使われます。東日本大震災の時から支援金を募っていますが、支援金自体があまり認知されておらず、十分な資金が適切なタイミングで集まりにくい状況になっています。

支援活動しているNPOやボランティアグループなどは行政に比べて規模は小さくても小回りが効き、スピーディな支援ができます。時間の流れに伴い刻々と変わる必要とされる生活用品や医療品、介護用品など物資の調達に交通費、ガソリン代など活動資金がないと支援は続けられません。

東日本大震災後、私も南三陸に二回、仙台に一回、ボランティアでガレキの撤去に行きました。午前零時近くに新宿集合。マイクロボス内で仮眠。朝、現地到着。夕方出て午後10時に東京に戻る強行日程でした。マイクロボスの使用料、ガソリン代は参加者負担で一回参加で一万円弱でした。活動資金が捻出できないと活動の継続は難しいと痛感しました。寄付する時にどこに支援することが最適なのかを考えることも、復興のス

ピードを左右します。今回の災害には長期的な支援が必要となります。

荒川区社会福祉協議会では、被災地において被災を受けた方々への支援・救援活動を行うNPOやボランティアグループなどへの活動に役立てていただくために支援金募金を開始いたしました。

現在、支援金は70万467円（5月2日現在）集まっております。<sup>7</sup>

ほころびを繕う人に糸の提供する。託された支援は、温かな連鎖反応を起こして行きます。

被災地に行くことはできないけれど、代わりに活動してくれる人に気持ちを託してみませんか。

### 平成28年熊本地震支援募金

#### ★募金箱設置場所★

荒川区社会福祉協議会、荒川老人福祉センター、アクロスあらかわ、ふらっと・フラット、あらかわ希望の家、荒川生活実習所、おぐぎんぎ、汐人おもちゃ図書館

お問合せ

荒川区社会福祉協議会

TEL : 03-3802-2794 (代表) FAX : 03-3

802-3831

E-mail : info@arakawa-shakyo.or.jp

